笑工房ニュース

NO38　07・8・25　大阪市淀川区木川西2-19-10
電話 06-6308-1780　発行責任者　小林康二

木津川教授が笑工房応援
「お笑い」外の新分野確立へ始動

昨年まで立命館大学教授として、現在も「上方芸能」社代表や和歌山大学客員教授として活躍されている、関西を代表する文化人・木津川計さんが、故・長谷川伸の代表作「瞼の母」「沓掛時次郎」「一本刀土俵入り」等を中心にした「一人語り・長谷川伸劇場」で、「笑工房の客員芸人」に参加していただけることになりました。

問題は木津川さんの情熱に応えられるほど「全国から出演依頼」が入るか否か。

そこで早速「長谷川伸を知る世代」に焦点を当て約1万通のDM発送作業を開始。果たして「長谷川伸劇場」が笑工房の起死回生につながるか否か？、楽しみです。

同時に木津川先生には、これまで専門にしてこられた「社会論」「文化論」「生きがい論」等々の講演でもお力をお貸しいただくことになりました。

これを機に笑工房の活動分野を「励ましの笑い」に限定せず、憲法9条「改正」に反対しているさまざまな分野の一流の知識人を、要望に応じ全国に派遣できる集団へむけ、さっそく人選に入りました。

どのような人達が講師団に名を連ねていただけるか、楽しみにしていて下さい。

4カ月で131公演、新宿では野宿も
三若の全国巡業報告

4月1日に繁昌亭を出発して、全国巡業中の桂三若さんから、巡業報告が届いた。

笑工房の皆さん桂三若です。早いもので旅に出て4カ月。この間いろんなところで公演しました。

ちなみに、学校、公民館、老人ホーム、居酒屋、会社、野外、お寺、中華料理屋、葬儀会館、海の家、バーのカウンター、個人住宅……。

海の家は客全員海パン姿で上半身はだか。僕は着物ですから暑い暑い。流れる汗が目に入り続けて、目を開けることもままならず、まるで座頭市の落語会でした。個人住宅では大きな写真が飾ってあり、「ご遺影ですか？」尋ねると、おばあさん「去年死んだじいさんが、落語が好きでのう、じいさんのためにも盛り上げて下され」と泣き出した。しかし遺影に向かって「いえーい」は、やりにくいよ。

人の優しさ実感する巡業
でも寺の霊安室は怖かった

楽しいことはたくさんの人に出会えて、人の優しさを実感できること。つらいのは、決まった宿泊先がないこと。新宿では野宿も体験した。ダンボールを拾ってきて、くるまって寝たけど、便利ですね、あのダンボールというのは。あったかいし、持ち運びに便利やし、使い捨て自由やし、いざとなれば食べられるし。

お寺での話。公演を終えて、奈良県出身の住職夫人に通された寝室は、仏像が並ぶ20畳ほどの和室。

「ここは、普段、何に使う部屋です？」

「そんなこと気にせんとき」、でも気になります。

「僕、気になるんですけど、本当に何の部屋？」

「そんなこと知ったら、あんたが怖がる」

その時点で、ゾクッと身震い、再び聞くと

「お通夜のときに遺体を休ませておく霊安室」

「奥さん、怖くて、一人では寝られません」

「大丈夫、ここでは、皆、一人で静かに寝はる」

「それって、永眠でしょ、僕、早すぎますけど」

「何を言うてるのん、今までに文句言うた人、一人もおれへん、あんただけや」

当たり前や、みんな死んでる人ばっかりやん

「じゃー、私、行くからね、安らかにお休み」

瞬間「僕、もう永遠に目が覚めへんかも？…」。

尚、9月中頃は大阪が巡業地。同月16日18時より繁昌亭で桂三若、雷門獅篭の「危険なふたり会」を開きます。前売券2千円。当日2千5百円。

問合せ・ご注文は06～6375～6837（ビビンバの会・実行委員会まで）。

秋に新作発表へ
作家たち夏休み返上

秋に新作を発表すべく、作家たちが夏休み返上で頑張っています。奥井康弘さんが「企業コンプライアンス」、玉井史朗さんが「教育三法改悪後の教育現場」、阪野登さんが「これが介護保険の問題点」小西悟さんが「何をもたらす自治体の危機」。

いずれも今日の深刻な社会問題。さて、どんな作品に仕上がる、乞ご期待。

編集後記

全国24テレビ局で放送され好評の「国境なき芸能団」ドミニカ訪問記「笑いの力で地球を救え」を、局の了解を得てDVDとVTR2百枚にダビング◆「芸能団」の活動がよく分かる格好の宣伝物◆収録時間は約25分で頒布価格はDVDが5百円・VTR750円（いずれも送料込み、切手で可）◆皆さん、ぜひご注文下さい（小）